

鞍岳の麓に広がる農村風景

町並みについて

- ◆1070年に菊池氏初代の則隆が、京都の円通寺を同地区に移し造営した円通寺に由来する円通寺道は、現在は原・植木線とよばれる県道ですが昔は旧旭野村の主要道路でした。界限には、旭志地区の歴史を物語る建造物・文化財が集積しています。
- ◆円通寺の石門や、川に流されたお姫様を鯉が助けたという伝承を今に伝えるユーモラスな「鯉様」とよばれる石造物が残る姫井乙姫神社などが点在します。



町並みの中心(核)となる伝統的建造物



姫井橋

国登録有形文化財

- ◆合志川上流に架かる道路橋で1925年に隈府町列組合によって建設されました。主として木材運搬の馬車を渡すために造られ、「馬橋」の愛称で呼ばれています。運搬する木材が長いことから少しでも大回りしないように工夫され、橋桁が川岸に対して斜めに架かっているのが特徴です。



川に対し斜めに架かる姫井橋

- ◆県内で最初期の鉄筋コンクリート橋として貴重な土木遺産で、下路式*1の構造を持つ鉄筋コンクリートアーチとしてはわが国最古の事例です。

*1…下路式アーチ橋…アーチを路面より上に架け渡し、アーチ部材から路面を吊るという構造。橋の両端に大きな力が作用しないため、地盤の軟弱な都市部にある長大アーチ橋で多く用いられています。

同地区は、鞍岳の眺めを含めた自然景観とともに、菊池一族の厚い信仰の中心として繁栄した円通寺などの建造物を複合的に楽しむことができます。また、姫井の水神木や岩本巻天神の棕の木など集落のシンボリックな神木が存在感を醸し出し、郷愁を覚える農村風景を形成しています。